

令和7年度学校自己評価システムシート (県立伊奈学園総合高等学校) s26

目指す学校像	生徒一人一人の個性と資質・能力を伸ばし、切磋琢磨する中で高い志を持って希望をかなえる生徒を育成する学校
--------	---

重点目標	1 主体的に将来を考えさせる進路指導と、学習意欲を高めるよう工夫された授業を展開する。 2 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を推進する。 3 安心して通える安全な学校の中で、学習と部活動等の両立の実践を通じた充実した学校生活を実現させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 4 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生成A Iの進展などの科学技術の革新が進み、社会状況が大きく変化する時代において、伊奈学生が主体的に活躍できるようになるためには、以下の観点から課題となっている。 【教科指導等】 ア 大学入試改革、新学習指導要領を踏まえて、生徒の資質能力の向上を図るためのより一層の授業改善・指導力向上の取組の推進 イ 生徒がより高い目標を持つための大学入試にも対応した継続的・探究的な学びの推進 【進路指導等】 ア 生徒一人一人が主体的に進路を考え進路希望を実現する割合の増加 イ 生徒がより高い目標を持つための環境づくりと進路指導の質的向上 ウ キャリア教育の観点から、生徒が進学後の自身の生き方を主体的に創造できる自己教育力の習得 【将来構想】 総合選択制のキャリア教育、中高一貫6年間の指導、高校入試改善など、創立50周年に向けた展望の検討	【教科指導等】 授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。	① 各教員は、授業改善及び生徒の意欲喚起に連鎖する目標と方策を自己評価シートに明記する。 ② 校内授業見学や他校視察を実施し、学校全体で更なる授業改善に取り組む。 ③ 教科指導において、生徒の継続的な学びの取組及びICTを効果的な活用を推進する。 ④ 「総合的な探究の時間」「IINAサイエンス」を軸に、教科等横断した探究的な学びの充実を図る。	① 当該教員の自己評価が高まったか。 ② 他の教諭の授業を5回以上見学した教諭が80%を超える。 ③ 教科指導において「平日・休日の平均勉強時間」が増加したか。ICTを活用した授業の質的向上があったか。 ④ 教科等横断した探究的な学びの成果として、研究発表の本数が前年度より増加したか。	① すべての教諭から実践報告があり、自己評価は高まった。 ② 昨年度を大きく超える数値となったが、目標値を達成することができなかった。 ③ 「平日・休日の平均勉強時間」は平均1.75時間で、昨年度より微増した。また、すべての教諭がICTを効果的に活用できた。 ④ 県教育委員会主催の発表会や大学主催の発表会に昨年より4つ多く研究発表ができた。	A	○ 全ての教員の自己評価シートに、授業改善・意欲向上に向けた方策が明記され、自己評価も高まった。授業については、学習効果を踏まえたICTの有効活用と授業改善に、継続して取り組む。 ○ 教科等横断した探究的な学びの取組を次年度もさらに充実させて、生徒の学習意欲の向上、資質能力の育成を図っていく。
		【進路指導等】 生徒の進路実現のための組織的な取組を実施する。	⑤ 各教員は、生徒の進路実現のための目標と方策を自己評価シートに明記する。 ⑥ 担任や年次が3年間を見通した進路指導計画に基づいて、生徒の一人一人の進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 ⑦ 難関大学入試にも対応した各種進学講習体制を充実させる。 ⑧ 年4回の見直し共有会等での最新情報の共有、教員の間で意思疎通と理解を深め、指導に生かす。 ⑨ 科目選択ハンドブックを用いて連携した指導を行う。	⑤ 各教員の自己評価が高まったか。 ⑥ アンケート等で進路指導に関する満足度が前年度より向上したか。 ⑦ 講習参加者の状況は、前年度より向上したか。 ⑧ 生徒の進路希望が90%以上実現できたか。 ⑨ 研修会等で適時に正確な情報提供が図れたか。 ⑩ 生徒の科目選択満足度は80%以上になったか。	⑤ 全ての教員が達成状況を報告し、自己評価は高まった。 ⑥ 昨年度と同等で8割の生徒が満足、やや満足と回答。 ⑦ 講習参加者は110講座、延べ1550名で前年度と同水準。 ⑧ ⑥⑦ 進路決定率は、9割以上を見込む。 ⑧ 年次研修会を3回実施し、共通理解のもと、進路指導に生かすことができた。 ⑨ 満足度は約7割で、昨年度とほぼ同じである。	A	○ 全ての教員の自己評価シートに、進路実現に向けた方策が明記され、自己評価も高まった。 ○ 大学入試制度も多様化した部分があるので、今年度総括を踏まえて、次年度は更なる研究や準備を、担当分掌だけでなく、学校全体で組織的に進めていく。
		【将来構想】 創立50周年までのロードマップを踏まえて、具体的な検討を進める。	⑩ 3つのポリシー、教育課程(内進生と高入生)、新しい高校入試について令和8年3月までに具体的な内容を検討する。 ⑪ DXハイスクールグローバル型指定校として、生徒の活躍の場を設定する。	⑩ ロードマップを踏まえて具体が検討されているか。 ⑪ 海外研修や探究活動等に参加した生徒が、経験をもとにキャリア形成や進路決定をすることができたか。	⑩ 3つのポリシーの検討を進めている。 ⑪ 海外研修や探究活動において、SDGs10, 11, 16に取り組んだ生徒たちが、自身の活動を発表し、進路実現ができた。	B	○ 令和9年度入学生の教育課程について確認・検討することができた。 ○ 次年度、DXで整備した備品を活用した生徒の活躍の場を、組織的に検討していく。
2	学校説明会による生徒募集活動およびPTA後援会、同窓会活動等による広報活動を通じて、学校行事等の本校の特色ある教育活動や成果を、様々な手段を使って発信していくことが必要である。	本校の特色や活動の成果などの積極的な情報の発信をする。	① ホームページやInstagramで、教育活動を積極的に発信する。 ② 最新情報の発信に努める。 ③ 母校訪問や学校説明会、部活動体験を充実させる。 ④ 生徒一人一人が伊奈学生としての自覚と責任を持ち、年次やハウスを越えて自主的・主体的に行動できるよう指導する。	① 情報発信媒体の更新回数が前年度を上回ることができたか。 ② PTA後援会、同窓会と連携して広報活動ができたか。 ③ 参加中学生及び保護者は、本校の理解が深まったか。 ④ 生徒会活動を通して活発な意見交換がなされ、経験や伝統の継承ができたか。	① Instagram及び学校HPを活用して、昨年度より更新回数を増やし情報発信ができた。 ② PTA広報部に各行事の取材を依頼し、広報誌に掲載した。 ③ 学校説明会6回計画通り実施。 ④ 学園祭や体育祭において生徒が中心となって企画・実施できた。	A	○ 今年度の情報発信の課題を整理し、次年度も積極的な発信を行っていく。 ○ 第1回学校説明会を学校外の施設で実施したことは効果的であった。次年度はさらに組織的に7つの学系が一体となって生徒募集に取り組んでいく。
		部活動等の効率的な活動と充実により、学習習慣を確立させる。	○ 「D○活」を軸とした学習活動(週末の課題、読書活動など含む)に学校全体で取り組み、指導する。	○ 生活実態調査で「勉強・部活動の両立ができた」と回答した生徒が前年度より増加したか。	○ 学習習慣が身につけていることに関しては、約4割の回答があった。	B	○ 「D○活」を含め、自学自習の習慣化を目指した環境づくりを見直していく。
3	○ 引き続き、部活動方針や県のガイドラインを踏まえ、生徒が学習活動と部活動等の両立を図ることが課題である。 ○ 生徒の規範意識は高いが、自転車事故等もあり、交通事故防止や交通ルールやマナー指導が必要である。	職員が一丸となり、様々な事故防止への取組を強化し、安全に対する意識を高める。	○ 全教員の共通理解のもと、HRや集会等を通じて生徒自身でマナーを考え行動できるように丁寧な指導を行う。	○ 前年度より生徒の事故件数、苦情件数が減少したか。また、ヘルメット着用が普及したか。	○ 1年間丁寧な対応を行ってきたが、昨年度より生徒の事故件数は増加、苦情は微増した。また、引き続きヘルメット着用率を上げる工夫が必要である。	B	○ 全教職員の共通理解の下、組織的な対応により、引き続き、安心安全な学校づくりを目指す。

学校関係者評価
実施日 令和8年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>全教員が自己評価システムシートに具体的な授業改善策を明記し、ICTを効果的に活用した授業を展開している点は、高く評価したい。</p> <p>その結果、生徒の平均勉強時間が増加し、探究的な学びの成果として、研究発表の本数も昨年度を上回るなど、着実な指導力の向上が見受けられる。</p> <p>学習内容の定着に加え、生成A I等の進展といった社会状況の変化に対応できる、生徒の主体的な資質・能力をさらに伸ばさせる授業づくりを期待したい。</p> <p>3年間を見通した緻密な指導計画に基づき、担任や年次が生徒一人ひとりの希望に応じた、きめ細かな指導を行なっていることが9割以上の高い進路決定率の見込みにつながっている。</p> <p>難関大学入試への講習体制の充実や最新情報の適時な共有など、組織的な取り組みが功を奏している点は評価する。大学入試制度の多様化が進む中、科目選択満足度の更なる向上を目指し、生徒が卒業後の将来像より主体的に描けるようなキャリア教育の質的向上を期待したい。</p> <p>また教科指導とより密接に連携し学習意欲の向上が直接的に進路希望の実現に結びつく好循環をさらに強化してほしい。</p> <p>創立50周年に向けたロードマップや3つのポリシーの検討が着実に進んでいることを支持する。DXハイスクールの枠組みを活かし、グローバル社会で活躍できる伊奈学生の育成に向けた、具体的な教育課程の検討を進めることを期待したい。</p> <p>Instagramやホームページの更新頻度向上により、学校の「見える化」が前年度より大きく進んだ。特に学校外施設での説明会の実施は、地域や受験生に対する積極的なアプローチとして効果的であった。</p> <p>生徒会主導の行事運営は自律的な精神を育む素晴らしい伝統である。引き続き、生徒の活躍の場の充実を努めてほしい。</p> <p>学習習慣の定着には、依然課題が見られるため、部活動との両立しやすい効果的な学習環境の更なる整備を期待したい。</p> <p>ホームルームや集会を通じた丁寧な啓発活動が行われており、教職員の安全意識の高さが伺えた。2026年4月から道路交通法が改正されることも踏まえて、今後も実効性のある交通マナー指導に期待したい。</p>